

新潟県山田錦協議会、世界標準を目指す山田錦づくり

コロナの影響で2年ぶりの「反省会&忘年会」開催

瀬祭西田杜氏も参加令和4年に向けて大いに盛り上がる

生産者通信

(有)エコ・ライス新潟  
定価 100円(送料込)



12月6日、長岡の奥座敷「よもぎひら温泉」で、総勢二十八名が参加して開催しました。令和3年度の山田錦の品質は過去7年間で1番一等比率が高く、胴割れもほとんど発生しませんでした。

岩淵会長は、「新潟県の作況指数は九十六。この中で山田錦の品質が向上したのは生産者の皆様のご努力」と挨拶。「令和4年は新潟から山田錦コンテストの受賞者を出すためにさらなる研鑽を」と叱咤激励。

国内・海外が逆転

西田杜氏の特別講演では旭酒造の現状と戦略の説明がありました。海外は高価格帯の瀬祭の人氣があり製造が間に合わず。

【旭酒造 売上高】

令和1年	138億円
令和2年	107億円
令和3年	141億円

コロナで昨年は売り上げがダウンしましたが、今年最高売上と国内と輸出の販売が逆転。

積極的な設備投資

10億円の設備投資を計画。その資金の一部として、輸出入酒米の補助金を全額利用。半分は実施済み。10度の保管庫(3000m<sup>3</sup>)も建設中。品質を落とさず、生産能力増強を実現。

瀬祭にあう山田錦

世界基準を目指すために「瀬祭その先の先」の山田錦の基準を創る。新潟の生産者の皆様に「最高の瀬祭の山田錦」を生産してほしいと要望された。



岡山瀬祭  
新潟瀬祭  
飲み比べ。

山田錦コンテスト  
2020(予審)報告

農産物検査から  
「最高の瀬祭」へ審査基準変更



農産物検査の規格基準は昭和26年に制定。その後の酒米の高度精密化、消費者の嗜好の変化に規格基準対応ができていません。2年前より開始した「山田錦コンテスト」の賞金にばかり目が向きがちですが、3年目の今年には基準を大変革。高度精米するためには現在の規格基準では「その先の先」を醸すにあいけません。その為、新しい基準を設けました。

詳細は3月の研修会でご報告いたします。



山田錦  
審査状況